

カルメル

靈性センターニュース

2022年10月

390号

「イエスにお目にかかりたいのです」(ヨハネ12章21節)

教皇 聖ヨハネ・パウロ二世 使徒的書簡『おとめマリアのロザリオ』より

おとめマリアのロザリオは、聖霊に導かれて、第二千年期に次第に形を整えてきました。また、おびたしい数の聖人によって愛され、教導職によって奨励されてきた祈りです。第三千年期のあけぼのにあたり、この単純でありながら深みのある祈りは、わたしたちに聖性の実りをもたらし、ますます重要になってきています。ロザリオは、キリスト教的生活の霊的な旅路にみごとに融合しています。この霊的旅路は、二千年の時を経ても、その始まりのときの新鮮さを何も失っておらず、「沖に漕ぎ出す」(ルカ5・4)にあたって神の霊に導かれていると感じています。それは、イエス・キリストは主であり、救い主であり、「道であり、真理であり、いのち」(ヨハネ14・6)であり、また「人間の歴史の終局、歴史と文明の熱望の焦点」であることを、この世に向かって、いま一度大声で宣言するためです。

確かにロザリオはマリアへの祈りという性格を持っていますが、核心においてはキリストを中心にした祈りです。それはつつましい内容の中にも福音のメッセージ全体の深みを含んでいます。ですから「(福音全体の)要約」と呼びうるものです。(1)



目次

教会からの巻頭の言葉	1
目次	2
心の泉	3
カルメル会の企画案内	25
東京	26
京都	30
諸所の企画案内	33
郵送お申込みのご案内	38
あとがき	39

心の泉



宇治カルメル会修道院 十字架の道行き



第三卷

第五十章 悲しみもだえる時、人はすべてを神のみ手に任せるべきである

1 子

《主なる神、聖なる父よ、今もいつも世々にあなたは祝されますように。あなたのみ旨はつねにおこなわれ、あなたの定められることはつねに善です。あなたのしもべは、自分をも他の人をも喜びとせず、あなたにのみ喜びを置きます。あなただけが真の喜びであり、私の希望と栄冠、楽しみと誇りです。何一つ価値のないしもべは、あなたからいただいたもの以外に何をもっているのでしょうか？あなたがしもべにしてくださったこと、与えてくださったことは、すべてあなたのものです。「私は貧しく、幼児から不幸のうちに生きてきました」(詩編 88・16)。私の心は、時には悲しみのあまり涙を流し、時には、身近に迫ってくる苦悩にさいなまれ、心が騒ぐことがあります。

2 主にゆだねて

私は、平和の喜びを望んでいます。慰めの光で養われる神の子らの平和にあこがれています。私に平和を与え、聖なる喜びをそそいでくださるなら、しもべの心は、敬虔な賛美のうちに喜びにはずむことでしょう。しかし、あなたがよくなさるように、私から遠ざかってしまわれると、しもべは、「掟の道」(詩編 119・32)を歩めず、膝を折って胸を打つことしかできません。あなたの光が私の頭上に輝き、ご保護の翼に隠れて誘惑から守られていた昨日やおとといは、もはや過ぎ去ったからです。

3 時が来た！

正義であり、たたえるべきおん父よ、今やしもべの試練の時は来ました。愛するおん父よ、この時にあたって、しもべがあなたのために何事かを忍ぶのは当然のことです。永遠に崇^{あが}られるべきおん父よ、あなたが永遠の昔より予見していた時は来ました。そしてしもべは、しばらくの間、外部からの打撃を受けて倒れるかもしれません。しかし内部においては、絶えずあなたのそばで生きています。侮辱を受け、他人にあなどられ、面目をつぶされ、苦しみと病気のうちに打ち砕かれるでしょう。しかしそれは、新しい光のうちにあなたと共に復活し、天において光栄を受けるためなのです。

聖なるおん父よ、あなたはこのように定め、このように望まれ、そしてあなたの命令どおりにおこなわれたのです。

10月はリジューの聖テレジア(テレーズ)の祝日ではじまり、15日にはアビラのテレジア(テレサ)を祝います。そして16日は「神は私のうちに、私は神のうちに」と神の愛の神秘を生き抜いた三位一体の聖エリザベットの列聖記念日にあたります。

自分の計画が思うようにいかない、すべてが自分に逆らっているように思える時、自分がなすべきことをした後、神の「時」を待つ…いつまでも神が望まれる時まで。決して自分から制限をつけない、ここにテレーズの徹底した委託の精神があります。 *1



「イエスさま、あなたがお望みになるだけ、
いくらでも待ちましょう。」～テレーズ～

「自分がある状況が静かな大海であろうと、嵐に見舞われていようと、
神がご自身を与えたいと望まれるように私たちは神をお受けするのです。」
～福者マリー＝ユージェヌ神父～

でも私は倒れてしまいます！もし倒れ、もうどこにいるのかわからなくなったら、祈ってください。
でも、あなたの祈りの効果をすぐに期待しないように。あなたを立ちなおさせる愛が、少しずつ注がれるのを待つことです。
神はあなたを救うことを望まれているのですから、
そのためにご自身をあなたにお与えになります。それを信じて待つのです。 *2



主のうちに愛する人々を見出します。
祈りは心と心をつなぎます。
神の近くにいるとき、私の愛するすべての方々のことを
主にお話するのは、なんとすばらしいことなのでしょう。
主のうちに愛する人々を見出します。……
あなたも私のことを少しイエスさまにお話ししてください。
神を中心として生きるものにとって別離はありません。

～三位一体の聖エリザベット～

* 3

伊従 信子 (いより のぶこ)
ノートルダム・ド・ヴィ

- *1 「テレーズの祈り」76p 伊従編 聖母の騎士社
- *2 「神と親しく生きる祈りの道」初版98p ドグレール/ギシャール著、伊従訳 聖母の騎士社
- *3 「三位一体の聖エリザベット いのちの泉のほとりにて」伊従信子 213p ドンボスコ新書

創造主への賛美（57）

くのり
九里 彰

アビラの聖テレジアは、『自叙伝』第20章の中で、恍惚（エクスタシス）の体験について詳しく述べている（この体験は、霊の高揚、霊の飛翔、霊が奪い去られること、脱魂等とも呼ばれているが、聖女はこれらは皆、同一のことであるとしている）。

（この恵みの）第一のものは神の至高の権能を示すことで、みいず高き神がそれを欲し給う時、私どもは、霊魂と同様、体をおさえることも全くできず、私どもはもはや、この両者の主ではないということに悟らされます。・・・打ち明けて申しますが、私は自分の体がこのように地から上げられるのを見て、大変恐ろしく、特に初めのころは、最も激しい恐怖に捕われました。・・・髪の毛は頭上に逆立ち、このような偉大な神にそむくことをたいへん恐ろしく思います。しかしこの恐れは、最も熱烈な愛に包まれていて、そしてこの愛は、聖主が、このように腐った虫に過ぎない者に、これほど過ぎた愛をお持ちになるのを見て、さらに増大します。（20・7）

このような超自然的な神秘体験を持つ人は、少ないと思われるが、このような異常な体験が神からの真正のものであるか否かのしるしは、聖女が他の著作で繰り返し強調している「謙遜」である。

望もうと望むまいと、私どもは、自分より強い誰かがいて、これらのお恵みはそのみ手の賜物であり、私たち自らは何もできない、絶対に何もできないことがわかり、霊魂に深い謙遜が印刻されます。

この反対は、傲慢である。それによって、自分が人より偉い者となったように錯覚する。そしてさらなる体験を得ようと必死になる。だが、十字架の聖ヨハネは、逆の道を歩むように、すなわち。そのような体験に重きを置かず、ひたすら信仰の道を歩むよう勧めている（この点、禅仏教で言えば、見性体験を重視する臨済宗に対し只管打坐を提唱した道元の曹洞宗に似るかもしれない）。それは、真実、神からのものであるかどうかを見極めることはきわめて難しいし、たとえ神からのものであるとしても、それを受け取る人間の側の理解は不完全だからである。

十字架の聖ヨハネのこぼれ話 (172)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

忍耐の戦い④

- 病室係のベルナルド修士が病人に一生懸命に尽くしているのを見ると、「命令によって病室係をやめさせました」。
- ベルナルド修士は、(院長の) 多くの横暴を見て、起きていることを告げるため、管区長のイエスのアントニオ神父へ、使い走りを送りました。
- すぐにアントニオ神父は来て、
- 聖人の取り扱い方に関し、院長を強く叱責しました。
- そして修道者たちに、聖人を訪ね、すべて可能なかぎり手厚く彼の世話をするように命じました。
- ベルナルド修士を病室係にもどし、「あらゆる思いやりをもって、病人のもとへ行くように、また院長が必要なものを与えず、必要なお金を探すようであれば、彼がすべて払うので、彼に知らせるように命じました」。これらすべての詳細を語った人であるベルナルド修士は、こう付け加えています。「くだんの病人が受けたこれらすべての不快な出来事—それはたくさんありましたが—の中で、彼がくだんの院長に逆らう言葉を口にすることを、一度も私は聞きませんでした。むしろそれらすべてのことを、聖人の忍耐をもって耐えていました」。

十字架のヨハネを危機にさらしたこれらすべての試練において、ありふれた言葉で言えば、聖ヨブの忍耐に至るまで、すでに同じ年の 1591 年 7 月 6 日付の手紙の中で表現したように、彼はすべてを御手にゆだねていました。「これらのことは、人間ではなく、私たちに何が良いかを知り、私たちの善のためにはすべてを整えられる神がしておられるのです。すべては神が整えられるのだとだけ考えなさい。そして愛のないところに、愛を置きなさい。そうすれば愛を刈り取るでしょう……」。

(P. 九里訳)

年間第27主日

(ルカ17：5 - 10)

今日の福音は、弟子たちがイエスに信仰を増してくださいと願った時の出来事です。イエスは、からし種一粒ほどの信仰があれば、桑の木に、抜け出して海に根を下ろせと言っても、言うことを聞くであろうと話し、信仰について語られました。弟子たちは、信仰を増して・・・と願っていますので、弟子たちは自分たちが信仰を大なり小なり、何らか信仰を持っていると思い、イエスに増すことを願ったということなのでしょう。

その様な弟子たちに、イエスは別のたとえ話を語られます。畑を耕すか羊を飼う僕がいるとして、僕が畑から帰って来ると、主人はその僕に、夕食の用意をして給仕する様、主人の食事が終わってから食事をする様に…と言うのではないだろうかと言われます。また命じられたことを果たしたからといって、主人は、僕に感謝するだろうかと問いを弟子たちに発します。当然のことを果たしたに過ぎないから、主人は僕に感謝しない、感謝を期待することはできないということなのです。

そして、あなたがたも同じことだと弟子たちに言われ、自分に命じられたことをみな果たしたら、「わたしどもは取るに足らない僕です。しなければならぬことをしただけです」と言いなさいと命じます。

神から愛され、神の恵みと慈しみによって神の子とされ、神の子として今歩んでいる私たちですが、果たして神の愛に答えて神を愛し、人を愛して歩んでいるでしょうか。決して見返りを求めて何かを行うのではなく、見返りなしに「わたしどもは取るに足らない僕です。しなければならぬことをしただけです」と思い、また言える心で何かを行っていくならば、私たちの平凡な日常も、平凡に見える、平凡と思える日常は、神の愛に答えて愛に生きることができるということを、私たちに語りかけ、論じて下さっている様に思います。

取るに足らない僕。私たちもイエスが語られる様なその様な僕でありたいと思います。もしその様に生きることができるのであれば、私たちの日常は、神への愛、人への愛、愛に彩られたものになるのではないのでしょうか。神から愛されていることを深く悟り、その愛に答え、愛のうちに歩んでゆくことができますように。神の恵みと祝福が豊かにありますように。

(Fr. 古川利雅)

年間 第28主日 (C)

(ルカ 17 : 11-19)

「立ち上がって、行きなさい。あなたの信仰があなたを救った。」

本日のルカの福音は、お気に入りのルカのテーマの説明です。社会の不幸な人たちに対するイエスの愛、特に本日、サマリア人に関して読みます。私たちに対しての神の大きな親切心、そして私たちは一生神に感謝し、賛美する義務のあることを思い出させてくれます。

本日の福音は、重い皮膚病を患っている十人の人をイエスさまがいやしたお話です。その人たちのうちの一人、サマリア人だけがイエス様にお礼を言うために戻ってきました。他の九人はユダヤ人だったのですが、自分たちがいやされるのは当然のことと考え、その一方でサマリア人は受けるに値しない神からの贈りものと考えました。この人に救いをもたらしたのは、イエス様への信仰でした。サマリア人は信仰と感謝のお手本として表わされています。サマリア人の感謝の気持ちは、自由で、受けるに値しない神の憐れみに対する当然の反応でした。実際には、十人の皮膚病患者がイエス様のところに来て、絶望的な叫び声をあげ、「イエスさま、先生、どうか、わたしたちを憐れんでください」と言ったのです。憐れみ深い主は全員を治しましたが、彼らのうち九人はお礼を言いに戻ってきませんでした。感謝の気持ちのないことを示しています。

この福音のメッセージは、ユダヤ人とサマリア人についてだけのものではなく、同じように私たちの生活にも当てはまります。神から頂いている数知れない贈りものと祝福に感謝するのは、キリスト者の義務であり、特権でもあります。この世の人々には、基本的に二つのタイプがあります。感謝する人、感謝しない人です。どちらに入るか、反省してみましょう。生きている神に対して、贈りものである生命や、健康、家族、友人、そして私たちの生活に関わりを持ち成長するのを助けている全ての善意の人々に、いつも感謝しましょう。とりわけ、全能の神がイエス・キリストを通して救いの恵みをくださっていることを感謝しましょう。

(Sr. Paulina)

年間 第29主日

(ルカ18 : 1-8)

イエスはたとえを語られます。「ある町に、神を畏れず人を人とも思わない裁判官がいた。ところが、その町に一人のやもめがいて、裁判官のところに来ては、『相手を裁いて、わたしを守ってください』と言っていた。裁判官は、しばらくの間は取り合おうとしなかった。しかし、その後考えた。『自分は神など畏れないし、人を人とも思わない。しかし、あのやもめは、うるさくてかなわないから、彼女のために裁判をしてやろう。さもないと、ひっきりなしにやって来て、わたしをさんざんな目に遭わすにちがいない。』」

こう語ったイエスは、「このような悪い裁判官でさえ、しつこく願うならば言うことを聞いてくれる。ましてや、天の父が、日夜叫び求めている選ばれた人々の叫びを聞かないはずがあるだろうか」と結ばれます。

当時、やもめは社会的に立場の弱い存在でした。面倒を見てくれる息子や娘がいなかったら、生活の糧を得ることも困難だったことでしょう。そんな立場に立たされていたやもめの中には、信仰の篤い人もいて、わずかでもなげなしのお金を献金して、神に生涯を奉献しているやもめがいたことも記されています(ルカ21・2-4)。神だけに頼る貧しい人、しかし、その心は熱く燃えており、神の心にその声を、その信仰を強く響かせていたのです。

イエスはこのたとえを語られた後、「果たして地上に信仰を見いだすことができるだろうか」とも言われました。神の心に届くほどの熱い信仰が、果たして地上にあるだろうか、と疑問を呈しているのです。

神はいつでも聞こうとされています。そして、恵みを豊かに与えたいと願われています。神も、信仰をもって祈る人に渴いているのです。神はどんな人でも愛されますが、やはり自分を求めてくれる人、頼ってくれる人を可愛がってくださいます。信仰をもって祈り、頼り、願う人は、神から特別に愛され、困難を乗り越える恵みも与えてもらえるものなのだと思います。むしろ、それ以前に、神との親しい関係を生きたことそのものの中に力と勇気の源となる泉が湧いてくるのです。「わたしを信じる者は、その人の内から生きた水が川となってあふれ出る」(ヨハネ7・38)。

(今泉健 神父)

年間 第30主日 (C)

(ルカ18:9-14)

「神様、罪人のわたしを憐れんでください」

今日のルカによる福音書は、ファリサイ派の人と徴税人が登場する有名なたとえ話です。ファリサイ派の人は、異邦人、特にローマ帝国から完全に離脱すべきだと考えていました。そして徴税人は、ローマ帝国側に雇われたユダヤ人でしたので、ユダヤ人の大半から裏切り者として嫌われていました。イエスは、私たちの祈りの生活には誠実で謙虚な心が必要不可欠だと教えています。

このたとえ話では、うぬぼれが強いファリサイ派の人がまず、「ほかの人たちのように奪い取る者、不正な者、姦通を犯す者でなく、この徴税人のような者でもないことを感謝します」と神に感謝して祈ります。次に、彼は自分の善行を振り返ります。このファリサイ派の人の問題は、プライドの高さです。神に信頼せずに関心自身を信頼しています。他方、徴税人は目を天に上げようともしません。自分の罪を告白し、胸を打ちながら、「神様、罪人のわたしを憐れんでください」とへりくだりながら神の憐れみを願い求めます。するとこの徴税人は神の憐れみを受けました。

清い良心と意向はとても大切です。肝心なのは、私たちの心の内です。私たちの思いと考えをご存じの神は、私たちがひそかに抱く考えや欲望もお見通しです。私たちが絶えず思い起こすべきなのは、他人と比較することなく「本当」の私たちが神が愛してくださるということです。私たちは、自分の祈りがいつどのような面でファリサイ派の人のようになっているか、あるいは徴税人のようになっているかについて良心の糾明を試みましょう。

このたとえ話は、高慢と自己中心主義とうぬぼれが自分の祈りを支配しかねない危険性を自覚することを促しています。神のあわれみを受けて救われるためには、まことのへりくだりと痛悔が必要です。そこで私たちは、徴税人と同じ言葉でこう祈りましょう。「神様、罪人のわたしを憐れんでください」。

(*Sr. Paulina*)

年間第31主日

(ルカ19：1-10)

今日の福音は、徴税人ザアカイがイエスと出会い、回心するという有名な個所です。ザアカイは徴税人でした。しかも徴税人の頭で、金持ちであったと書かれていますので、生活に困ってイエスところに来たという様な状況でない…ということがわかるでしょう。

そうではなく、人々が会いたいと願っているイエスに徴税人である自分も会いたいと願って行動している様子が描かれています。群衆に混じってイエスを一目見ようとしたザアカイ、とても残念なことに、群衆に遮られてイエスを見ることができませんでした。

そこでザアカイは一体何をしたのでしょうか。イエスを見るために、走って先回りし、それだけではなく、いちじく桑の木に登って木の上から、通り過ぎようとしておられるイエスを見ようします。ザアカイは望み通り、イエスを見ることができました。そして、思わぬことが起きます。

イエスは木の上のザアカイを見上げて、「ザアカイ、急いで降りて来なさい。今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい。」と言われたのです。予期せぬ出来事にザアカイは喜び、イエスを迎えます。そして財産の半分を貧しい人々に施し、誰かから何かだまし取っていたら、四倍にして返すと言います。イエスと出会い、生き方、行動を反省して回心し、新たに歩みだそうとするザアカイ。その姿がそこにあります。

「今日、救いがこの家を訪れた。この人もアブラハムの子なのだから。人の子は、失われたものを捜して救うために来た。」とイエスは言われます。これは言うまでもなく、ユダヤ教のザアカイに語られた言葉ですが、私たちが愛しておられる父なる神、神の子イエスは、ザアカイになさった様に、神から離れてしまった私たちが神に立ち返る様に、ご自分の方から私たちに目を注いで下さり、その「声」は聞こえないかも知れませんが、私たちに語りかけておられるのではないのでしょうか。

もし罪を犯して神から離れてしまっていたとしても、神に目を向けて、心に向けて、神と出会おうとするなら、神と出会い、神に立ち返る恵み、神の子として新たにされて生きる恵みをいただくことができるでしょう。神に信頼し、神のいつくしみにより頼み、私たちが神のみ腕、神の懐に飛び込んでゆくことができますように。神の恵みと祝福が豊かにありますように。

(Fr. 古川利雅)

糸巻き棒からペンへ(79)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス OCD

また同時に、祈らなかった時は、私は生きておらず、死の陰と戦っていたと言わねばなりません。ですから、どうして祈りなしに生きることを、生と呼ぶことができたのか、驚いています。私の無知のゆえに、これほど大きな善に気づくことができなかつたことを、神はお赦しくださるでしょう。あるいは私たちは自分たちだけで十分だとか、知らなければならぬことはすべて知っているとか、救い主など求めていないのだから、結局、私たちは彼を必要としていないのだと思いこませる傲慢だったのかもしれない。

私が経験したことから次のようなことが言えます。つまり、祈りを始めた人は、どんなに不完全に祈ろうとも、祈りをやめてはならないということです。というのも、祈りは自分がいやされるための手段であり、祈りなしにはもっともっと難しくなるでしょうから。また祈りを始めなかつた人には、主の愛ゆえに、これほどの善に欠けることのないように祈ります。ここでは、恐れる必要はありません。そうではなく、だれもが神を自分にはふさわしくない友と見なさないようにと望まなければなりません。さらにあえて言いましょう。神こそ私たちを最初に愛し、私たちを探し、私たちを大きな声で呼んでおられ、私たちに御自分を現わそうと望んでおられる方であり、私たちに御自分をプレゼントできるため、祈りによって準備することだけを私たちに望んでおられるのです。

祈りの本質とその土台

祈りとは何か言うことができるのであれば、私の考えでは、友情の交わり以外の何ものでもありません。私たちを愛してくださっていると私たちが知っているそのお方と、ただひとりだけになって、たびたび交わることです。霊魂が祈る時、他でもない神との愛に満ちた会話をしているのです。ですから、だれといるのか、自分はだれなのか、言っていることは何なのかに気づき、思い巡らすことはよいことなのです。というのもそうでないなら、たとえどんなに唇を動かそうとも、私はそれを祈りとは呼びませんから。

(P.九里訳)

いのちの言葉 10月

神は、おくびょうな霊ではなく、
力と愛と思慮分別の霊を
わたしたちにくださったのです。

(テモテへの手紙 2、1・7)

この「いのちの言葉」が引用された手紙は、パウロの霊的遺言のようなものと考えられています。使徒パウロはローマで獄中にあり、判決を待っています。そして、若き弟子であり、エフェソの複雑な共同体を担う共働者であるテモテに、この手紙を書いています。

手紙には、テモテに向けた勧告や助言が記されていますが、それは当時と今日（こんにち）のキリスト教共同体のメンバー一人ひとりに向けられたものでもあります。福音を宣べ伝えたことで鎖につながれたパウロは、迫害を恐れ、自らの任務に伴う難題に躊躇している弟子テモテを、試練に立ち向かって共同体の確かな導き手となるようにと励ましています。パウロやテモテにとって、福音のために苦しむのは自然にできることはありません。このような証が可能となるのは、それが神の力に基づいているからです。

**神は、おくびょうな霊ではなく、力と愛と思慮分別の霊を
わたしたちにくださったのです。**

パウロは、福音の証し人になりたいと考えています。み言葉を伝える任務の成功や失敗は、個人の才能や能力、あるいは限界ゆえのものではないことは明らかで、聖霊の賜物である力、愛、思慮分別こそが、力強い証しをもたらすのです。「力」と「思慮分別」の間に位置づけられた「愛」は、識別の役割をもつようです。「思慮分別」は、どんな状況にも対応できる賢明さと覚悟を表現しています。テモテやすべての時代の弟子たちは、たとえ迫害に苦しむことがあろうとも、力と愛と思慮分別をもって福音を宣べ伝えることができるのです。

**神は、おくびょうな霊ではなく、力と愛と思慮分別の霊を
わたしたちにくださったのです。**

神のみ言葉を実践し、証しするという生き方において、私たちもまた、勇気を失ってしまうことや、どう対処したらよいかわからず後ずさりしたくなる誘惑を体験したことがあるでしょう。

そんなとき、再び力を得るにはどうしたらよいのでしょうか。キアラ・ルービックは次のように励ましています。「自分の内なるイエスの存在に呼びかけてみましょう。私たちがとるべき態度は、何もせずにあきらめて自らの内に閉じこもってしまうのではなく、自分の外に飛び出すことです。私たちの内におられるイエス様の恵みに信頼して、神が私たちに望まれることと一つになること、私たちが招いている使命に取り組むこと。これが、自分の外に飛び出すということです。私たちにそれぞれに委ねられた環境の中で、イエスを証しするために必要な徳は、イエスご自身が私たちの内に育ててくださるでしょう」¹と。

**神は、おくびょうな霊ではなく、力と愛と思慮分別の霊を
わたしたちにくださったのです。**

力、愛、思慮分別、これらは、祈りと信仰の実践によって得られる聖霊の三つの徳です。

中央アフリカ共和国のジャスティン・ナリ神父は、修道会の兄弟たちや、内戦の報復措置から逃れるために教会に避難していた1000人のイスラム教徒とともに命の危険に晒されていました。教会を包囲した武装組織の指導者たちから幾度にもわたり降伏を迫られましたが、虐殺を防ぐため、ジャスティン神父は彼らと対話を続けました。ある日彼らは40リットルのガソリンを持って現れ、「イスラム教徒を引き渡さなければ、生きたまま全員焼き殺す」と脅しました。「私は会の兄弟たちと最後のミサを捧げるなか、キアラ・ルービックのことを思い出しました。『今の私の立場に彼女がいたなら、どうしただろう。きっとここに留まって、命を捧げただろう。私たちはその通りにすることにしたのです。』ミサの後、思いがけない電話がかかってきました。アフリカ連合軍がこの地域の近くの町を通過するという知らせでした。ジャスティン神父は連合軍のもとに駆けつけて、彼らと共に教会に戻りました。最後通告の期限まであと13分でした。流血なしに、全員の命を救うことができた13分だったのです。²

レティツィア・マグリ

1. キアラ・ルービック 1986年10月の「いのちの言葉」より。（改訳）

2. 「一致とは平和の名：キアラ・ルービックの戦略（未邦訳）」マッダレーナ・マルテーゼ著
チッタノーバ社 ローマ 2020年 p. 29-30

*いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

連絡先：フォコラーレ 東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail:tokyofocfem@gmail.com ホームページ: <https://www.focolare.org/japan/>

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>
の記事を紹介します。

<< Communications (時事通信) >>

2022年7月30日

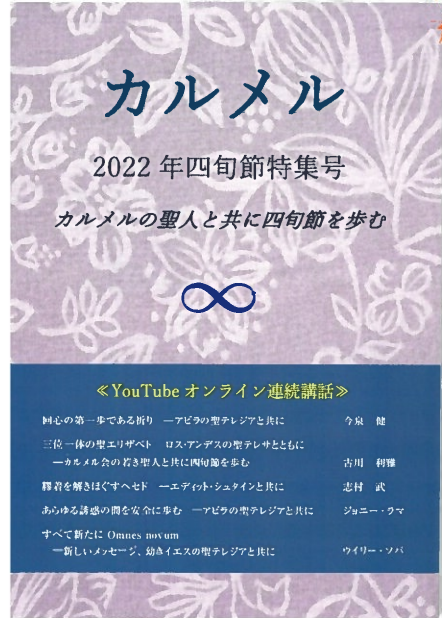
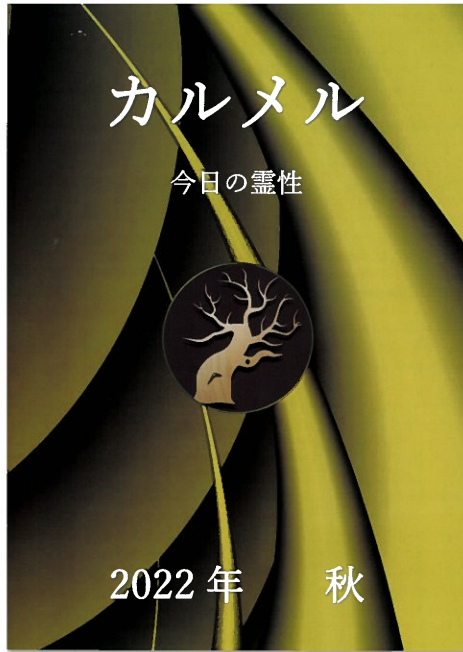
アフリカのブルンジールワンダで『ラウダート・シ』の会議を開催：
「すべてのものは繋がり合う」体験と黙想



今年5月26日木曜日から29日の日曜日までブルンジ共和国の首都ギテガの跣足カルメル修道会は、ブルンジの都市ブジュンブラとギテガで中等教育と大学教育を受けて勉強している50名の若い学生たちを会議に招きました。彼らはこの期間中、教皇フランシスコの回勅『ラウダト・シ』の発行7年目を記念して、現代における創造物の保護促進についてともに祈り、学び、黙想して過ごしました。今回の会議の目的は、1972年開催のストックホルム国連環境会議、1992年リオデジャネイロ国連環境会議の「環境と開発に関するリオ宣言」、1993年リオデジャネイロでの「生物の多様性に関する条約」、2002年ヨハネスブルグでの「持続可能な開発に関する世界首脳会議」での宣言、2015年教皇フランシスコ回勅『ライダート・シ』に基づいて、地球上で緊急を要する環境保護と、その促進への人々の意識を高めなければならないことでした。

この会議は“もし私たちが生命の流れと生きているものを妨害することに罪悪感を持ちたくなければ”の立場で、環境からの要請を考慮にいたした霊性と作業実践プログラムの達成のための持続的な努力の一環として行われました。この会議のためギテガの跣足カルメル修道会は、スエーデンのストックホルム教区から財的支援を得たことを心より感謝しています。また跣足カルメル修道会総長顧問のジャン・バプテスト・パガベレグェム神父（西アフリカ、ブルキナ・ファーズ 管区長代理）が会議全体にご臨席下さったことへの深い感謝の意を表しました。

（翻訳：小宮山延子）



2022年 特集号

カルメルの聖人と共に四旬節を歩む

回心の第一歩である祈り

—アビラの聖テレジアとともに

今泉 健

三位一体の聖エリザベト

ロス・アンデスの聖テレサとともに

—カルメル会の若き聖人と共に四旬節を歩む

古川利雅

膠着をときほぐすヘセド

—エディット・シュタインと共に

志村 武

あらゆる誘惑の間を安全に歩む

—アビラの聖テレジアと共に

ジョニー・ラマ

すべて新たに Omnes novum

—新しいメッセージ、幼きイエスの聖テレジアと共に

ウイリー・ソバ

2022年 秋号 No.386

エディット・シュタインの言葉 抄(三)

釘宮明美

道の靈性(続)第三回

イエスの道の厳しさと喜び

田畑邦治

日々の出来事の中で 神の靈は導く(3)

—テレーズ生誕(1873~1897)一五〇周年を迎えて

伊従信子

あなたとなら どこへでも

森 みさ

キリストの説かれた 幸いなる道(7)

九里 彰

霊的研究会講義録(17)—聖書・祈り・愛について

奥村一郎

ご案内 1冊 580円 A5サイズ 50~70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、760円【580円(+送料180円)】程度の献金を下記へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊:春夏秋冬+特集号 計 3,600円)を下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

●お問い合わせは、事務担当:内田幸子宛に上野毛修道院へ手紙かファックス、又はe-mailで。

〒159-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 Fax: 03-3704-1764

E-mail: carmelshi.jimu@gmail.com

新刊紹介

聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた ニコラオ・プレシエル神父の講話Ⅱ ロザリオの祈り



Chrysostomus
小野崎良子 編

ロザリオの祈り

聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた
ニコラオ・プレシエル神父の講話Ⅱ

【出版社】 教友社

【著 者】 小野崎良子：編

価格 1,650 円（税込）

品番/ISBN: 9784907991807

発売/発行年月: 2022 年 3 月

判型: A5

ページ数: 184

中川博道師
(カルメル会)
《推薦》

聖母マリアは、「イエスを愛し、信じて生きるキリスト者の典型・模範」です（教会憲章 53 番）。ニコラオ師はロザリオを通して、日々私たちが、イエスの神秘をマリアとともに生きる道をわかりやすく説明してくださいました。

教友社の定価 (1,500 円＋税)

「ニコラオ神父様が、ロザリオの祈りを捧げながら歩いているときに、突然十五の玄義の流れが鮮明に示され、ご自分の中でまとまったその内容をわたしたちに語られました」（「はじめに」より）。ニコラオ師亡き後、師の薫陶を受けた信徒たちによって記録された講話が 1 冊の本に。中川博道師（カルメル会）推薦。

小野崎 良子(おのぎき・りょうこ)

1950 年夕張市大夕張の炭鉱の町に生まれる。小学 4 年生の時、「クリスマスにはプレゼントがもらえる」という級友の誘いに乗り、高校卒業まで熱心にカトリック教会に通う。その後地元を離れ旭川の学校に進学。青春を謳歌する日々の中、ふと感じた「空虚さ」を確かめるために再度教会(大町教会)を訪ねる。そこでニコラオ神父様に出会い受洗にいたる。

39 年間の教職生活を終えた後、ラジオで流れたキャロル・サック 宣教師の歌とハーブに触発され、日本福音ルーテル社団主催「リラ・プレカリア(祈りのたて琴)研修講座」にて 2 年間の養成を受ける。現在は求めに応じて、病床にある方、高齢者などを訪問し歌とハーブによる祈りをお届けしている。

ニコラオ・プレシエル神父

1921 年、(旧)チェコスロバキアに生まれる。1940 年、ドイツ軍無線通信兵として従軍。

1946 年、フランシスコ会に入会(ドイツ・フルダ管区)し、1952 年、司祭に叙階される。

1953 年、来日。1956 年、カトリック名寄教会着任。以後、美唄教会、大町(旭川)教会、枝幸教会、稚内・枝幸教会、富良野教会にて司牧。

2001 年以後、フランシスコ会札幌修道院、月形町藤の園にて療養する。

2007 年 1 月 6 日、月形町藤の園にて帰天(85 歳)。

書籍紹介

十字架の聖ヨハネ理解のための

待望の書 翻訳刊行



『十字架の聖ヨハネの霊性』

フェデリコ・ルイス師の講話
〈十字架の聖ヨハネ・霊性神学研究の第一人者〉

著者：フェデリコ・ルイス

訳者：九里 彰

判型：B6 判並製

ページ数：184 ページ

価格：本体 1,600 円+税

ISBN：978-4-8056-3918-4 C0016

発行：サンパウロ

スペインで「詩人の守護聖人」と称される十字架の聖ヨハネは、日常生活の中で神との親密な関係を生き、キリストと、隣人との愛の交わりを生きた聖人でした。自身の神体験を詩で表し、自らそれを解説し、著作として残しています。彼は決して近寄り難い人物だったわけではなく、バランスの取れた温厚な人でした。

インターネットや AI が発達する、「霊性の時代」といわれる現代において、神との出会いを生きる真の意味を、十字架の聖ヨハネの思想、生涯の中に探ることができます。

十字架聖ヨハネを正しく理解することは、霊性を正しく理解することの基礎となっていきます。

フェデリコ・ルイス・サルバドル

1933 年スペイン、バレンシア生まれ。1950 年跣足カルメル修道会入会。

1957 年司祭叙階。ローマ・カルメル会国際神学大学テレジアヌム教授。

2018 年 10 月 27 日マドリードにて帰天。享年 85 歳

九里 彰

カイルメル修道会司祭。1981 年上智大学大学院哲学専攻、博士後期課程修了。1990 年カルメル会入会。1997 年司祭叙階。1999~2002 年スペイン留学。カルメル修道会 元日本地区総長代理。現在、金沢広坂修道院院長

愛と英知の道

—すべての人のための霊性神学—

ウィリアム・ジョンストン 著

監訳 九里 彰
 岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生活の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにし

第一部 キリスト教の伝統

- 第1章 皆 畏（1）
- 第2章 皆 畏（2）
- 第3章 理性対神秘主義
- 第4章 神秘主義と愛
- 第5章 東方のキリスト教
- 第6章 愛を通して生まれる英知

第二部 対話

- 第7章 科学と神秘神学
- 第8章 修徳主義とアジア
- 第9章 神秘主義と根源的なエネルギー
- 第10章 英知と〈空〉

第三部 現代の神秘的な旅

- 第11章 信仰の旅
- 第12章 浄化の道
- 第13章 暗夜
- 第14章 〈愛のうちにある〉
- 第15章 花嫁と花婿
- 第16章 一 致
- 第17章 英知
- 第18章 活動
- 第19章 社会活動の神秘主義



ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を聖智大学などで講じるがたわら、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。パドロー・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、速藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。



書籍案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

———目次———

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
- 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
- 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
- 4 脱原発の倫理／久保文彦
- 5 何のために働くのか／神谷秀樹
- 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
- 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
- 8 関係の倫理学／清水正之
- 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
- 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
- 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
- 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
- 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ



**第2版
好評発売中!**

福者マリー=ユジェーヌ神父に導かれて 十字架の聖ヨハネの ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価**540**円(税込)

【聖母文庫】**287**



マリー = ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ
を生き、体験し、確認した教えなのです。
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの
教えは現代の人々にも十分適応されます。
また、神の命を伝え、実践的手段を示して
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の
配慮が伝わってきます。(「はじめに」より)

神と親しく生きる いのりの道

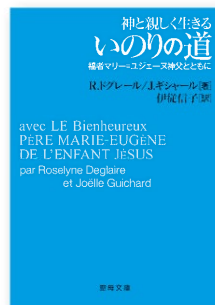
福者マリー=ユジェーヌ神父とともに

R. ドグレール / J. ギシャル 著

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】**246**

定価**540**円(税込) 209頁



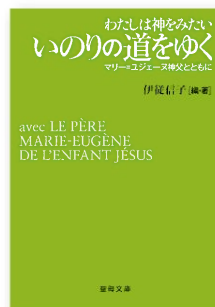
わたしは神をみたい いのりの道をゆく

マリー=ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

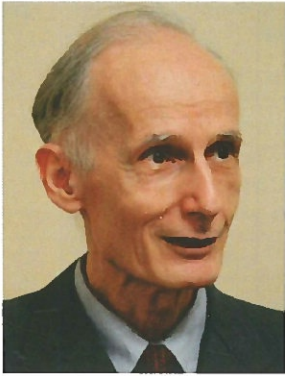
ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】**268**

定価**648**円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	I 超越体験 一宗教論 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	定価(本体+税) 9784862852151 3,800 円+税
第2巻	II 真理と神秘 一聖書の黙想 日常生活を貫いて人間とかかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	III 信仰と幸い 一キリスト教の本質 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」とおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに広げて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践 信仰との関わり方の薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

●リーゼンフーバー、クラウス [Riesenhuber, Klaus]

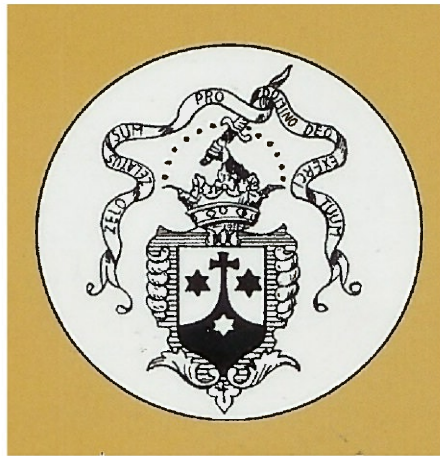
1938年ドイツ生まれ。1958年イェズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(～2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知 泉 書 館

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）



東京 上野毛 霊性センター

黙想企画 **上野毛 聖テレジア修道院 (黙想) **
(2022年~)

- ・祭日のミサに参加するために

チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

【クリスマス】

12月24日(土)~25日(日) 朝食《講話なし、夕食なし》

- ・聖書深読黙想会(土曜日17時~日曜日16時) 大瀬高司 神父

2023年

11月 5日~ 6日

2月25日~26日

- ・《カルメル会聖人に学ぶ黙想会》(水曜日10時~16時・昼食付) カルメル会士

10月26日 11月16日 12月21日

2023年 1月18日 2月15日 3月15日

- ・キリスト教霊性入門(木曜日10時~16時 昼食付) 松田浩一神父

10月13日 11月3日 12月8日

2023年 1月12日 2月2日 3月2日

- ・一泊黙想会 (土曜日16時~日曜日16時) カルメル会士

2023年

11月19日~20日

1月14日~15日

3月18日~19日

- ・奉獻生活者のための黙想会 (初日17時~最終日朝食) カルメル会士

12月27日(火)~2023年 1月 5日(木)

- ・召命黙想会(男女)40歳まで(初日16時~翌日16時) カルメル会士

11月11日(金)~13日(日)

- ・カルメル会召命黙想会(男子)40歳まで(初日16時～最終日16時)
カルメル会士

2023年

10月29日(土)～30日(日)

2月 4日(土)～ 5日(日)

- ・特別黙想会(初日20時～最終日16時)Sr. 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)
11月25日(金)～27日(日)



- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です(グループ、個人いずれも)。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせはFAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂きますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール: mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ: <http://www.carmel-monastery.jp>

一日黙想会

テーマ：『カルメル会聖人に学ぶ黙想会』

* 毎月第三水曜日（8月はお休み）

* 10時～16時 3,500円（昼食付）

<2022年度開催予定日（2022年4月～2023年3月）>

2022年	4月20日	5月18日	6月15日	7月20日
	9月21日	以上終了		
	10月26日	11月16日	12月21日	
	(*第4週)			
2023年	1月18日	2月15日	3月15日	

コロナの状況により中止となることもございます。
当面は少人数(定員10名)での開催とさせていただきます。

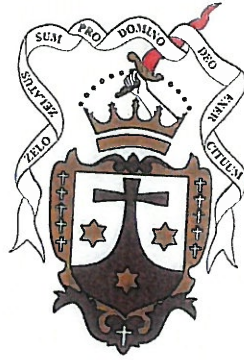
* 当修道院司祭が交代で指導いたします

今泉 健 神父
ジョニー 神父
志村 武 神父

お問合せ・お申込み: 〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25
カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

Tel: 03-5706-7355 Fax: 03-3704-1789

E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp



★★★カルメル会召命黙想会★★★

カルメル会の霊性を生きることとおして教会に生涯を奉げる道があります。聖テレジアや十字架の聖ヨハネらの教えに培われて、人々に祈りと兄弟的な生活を証していく道です。この道に関心を抱き、心に神の呼びかけを感じている方のお手伝いをさせていただきたいと思えます。

指導：カルメル会士

対象：カルメル会の召命に関心のある男子

場所：カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

日時：2022年 ~~4月2日（土）~~ ~~3日（日）~~ 16時～翌日 16時

~~7月9日（日）~~ ~~10（日）~~ //

10月29日（土）～30日（日） //

2023年 2月 4日（土）～5日（日） //

会費：¥5,000（3食付き）

*お問合せ お申し込み：

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL.03-5706-7355 FAX.03-3704-1789

Eメール mokusou@carmel-monastery.jp





宇治カルメル会 黙想会案内 (2022年度～)

【一般のための黙想】 中川博道神父

1泊2日 (土曜 午後5時～日曜午後4時)

5:30 サルヴェ・レジーナ (修道院) から開始

10/29～30

2023年

1/14～15 2/18～19

【聖書深読】 (午前10時～午後4時) 中川博道神父

10/8 11/19

2023年

1/21 2/11

【水曜黙想会】 (午前10時～午後4時) 中川博道神父

10/26 11/23

【祈りの学校】 (木曜 午前10時～午後4時) 松田浩一神父

10/13 11/3 12/8

【カルメルの霊性】 (午後5時～午後4時) 中川博道神父

幼きテレジア 10/1 (土)～2 (日)

十字架の聖ヨハネ 12/17 (土)～18 (日)

【奉獻生活者の黙想】 (午後5時～午前9時) 一般可

10/13 (木)～22 (土) 中川博道神父

12/27 (火)～1/5 (木) 中川博道神父

【祭日のミサに参加するために】

*<クリスマス>

12/24～25

チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30

(講話なし 食事つき)

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします—

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前9時～午後5時の間にお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願い致します。

聖書は各部屋に備えております。またタオル類も準備してありますが、コロナ感染症対策のため各自専用分を持参してもかまいません。

現在は感染防止策のため人数制限をしていますので黙想参加希望の方は早めのお申し込みをお勧めします。

また参加の際には三密回避などを心がける様ご協力お願い申し上げます。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)
Tel 0774-32-7016 Fax 0774-66-1191
E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp
<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

新企画！

松田浩一神父（カルメル会）による黙想会

「祈りの学校」

キリスト教の祈りを学び、実践する企画です。イエス様から教会へ伝承された「祈り」に基づいて、そして教会の中で培われた「祈り」について学んでいきます。



すべて木曜日 10:00～16:00

5/19—6/2—7/7—9/1 **終了** 10/13 11/3 12/8

持参するもの・・・筆記用具・ロザリオ

お問合せ・お申込みは、FAX、ハガキ、E-mailにてお願いします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

カルメル会宇治聖テレジア修道院（黙想）

Fax 0774-66-1191（聖テレジア修道院（黙想）専用）

E-mail : teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

諸所の企画案内



真命山 霊性交流センター
ノートルダム・ド・ヴィ
サダナ瞑想
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。

真命山 2022年 — 祈りの集いのご案内

イエス様のように祈る

毎月第2木曜日（10:00～15:00）

指導者 フランコ神父

- 1月13日 「御旨を行う」（詩編40：9）
2月10日 「私が父の家にいるのは」（ルカ2：49）
3月10日 「イエスも洗礼を受けて祈っておられると」（ルカ3：21）
4月 7日* 「イエスはひざまずいてこう祈られた。父よ、
御心なら、この杯を」（ルカ22：42）
5月12日 「天地の主である父よ、あなたをほめたたえます」（マタイ11：25）
6月 9日 「イエスは祈るために山に行き、神に祈って夜を明かされた」（ルカ6：12）
7月14日 「父よ、わたしの願いを聞き入れてくださって感謝します」（ヨハネ11：41）
8月 休み
9月 8日 「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます」（ルカ23：46）
10月13日 「イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えて」（ルカ22：19）
11月10日 「イエスは天を仰いで言われた。父よ・・・」（ヨハネ17：1）
12月 8日 「天におられる、私たちの父よ・・・」（マタイ6：9）



予約は前日の16：00まで

・個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします（要予約）

申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com

tel:0968-85-3100

講話と祈りのつどい

コロナウイルス感染の広がりにより、
予定しておりました「講話と祈りの集い」の開催を
現在保留にしております。

状況の推移を見守りながら開催の有無を
当会のHPに掲載いたしますので、
そちらをご覧くださいただければ幸いです。

担当 中山真里

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.co

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

プログラムの詳細、開催状況、補充情報などはホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jp/>

申込み受付・・開始日の8日前まで

コース	日時	指導	開催場所	申込み
名古屋 リピーターの会 A	11/5(土) 9:30-17:00	Fr植栗	聖霊会 八事修道院 ミッションセンター (名古屋市昭和区)	攪上(かくあげ)暁子 050-7108-7410 ngosdn@gmail.com
名古屋 リピーターの会 B	11/6(日) 9:30-17:00	Fr植栗	同上	同上
入門 B	11/13(日) 9:30-17:00	Fr植栗	援助修道会 リヒト宣教室(市ヶ谷)	来間(くるま) 裕美子※ 090-5325-2518 sadhana12378@yahoo.co.jp
広島サダナⅡ&アドバンス	11/20(日)9:00- 23(水・祝)16:30 *通いも可	Fr植栗 Fr アレックス	西日本霊性センター (広島市安佐南区)	西日本霊性センター 受付デスク 082-239-0034
入門 C	12/4(日) 9:30-17:00	Fr植栗	援助修道会 リヒト宣教室(市ヶ谷)	来間(くるま) 裕美子※
広島サダナⅠ	2023年 1/7(土)9:00- 9(月・祝)16:00	Fr植栗 Fr アレックス	西日本霊性センター (広島市安佐南区)	西日本霊性センター受 付デスク 082-239-0034
フォローアップ	1/15(日) 9:30-17:00	Fr植栗	シャルトル聖パウロ 修道女会九段修道 院(九段北)	来間(くるま) 裕美子※
フォローアップ 新Ⅰ	1/22(日) 9:30-17:00	サダナ チーム	援助修道会 リヒト宣教室(市ヶ谷) ※ミサは無し。イスでの 黙想です。	同上

※申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は、090-5325-2518(来間)までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子 Tel & Fax : 042-325-7554

●フォローアップおよびリピーターへの参加…サダナⅠを終えていること

●入門Cへの参加…入門Aまたは入門Bを終えていること。



念祷の集い

～沈黙の内に神を求めて～

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室

時間：以下の木曜日

14:00～16:00(講話と念祷)

主催：慈しみ深き会



くのり

指導：九里 彰 神父（カルメル修道会）

中止のお知らせ

2022年度予定

予定しておりました「念祷の集い」は、コロナウィルス感染のため、開催を中止しております。秋口からの再開を予定しておりましたが、いまだ感染の終息が見えない状況の中、今しばらく中止させていただきます。

再開する場合は、この紙面上にて再度お知らせいたします。

連絡先：篠原 三恵子

Tel:042-473-6287

e-mail: mieko.shinohara@gmail.com

『靈性センターニュース』

* 郵送お申込みのご案内 *

ご郵送は、基本的に1月から12月までとなります。
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から12月までとなります。
例：6月申込の場合は、7月号～12月号（但し8月号は休刊）となり、
5冊となります。ご希望の月数×250円程度の献金を下記口座
へお振込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座： 00910-6-333184
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、
郵便番号・住所、電話、Fax等ご明記ください。
また、郵送お申込とは別に、ご献金もお願いしております。
その場合は、「献金」とご記入お願い致します。
何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457
reisei@carmel-monastery.jp

インターネットから読める様になりました

『靈性センターニュース』バックナンバーを
宇治カルメル会のホームページに掲載してます。

PC版のみ PDF形式

宇治カルメル会修道院ホームページ

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

「カルメル靈性センターニュース」をクリック

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

靈性センターニュース掲載の情報も載っています

あしがき . . . つぶやき . . .

10月「ロザリオの月」、聖母マリアと共にロザリオをもってイエスを生きていきたいと思ひます。

新型コロナウイルス感染症の発症が取りざたされて二年半余り、「三密を避ける」必要の中で、人とのかかわりを持つことが従来のようにはできなくなり、孤立しがちな日々を送る私たち…。ロシアのウクライナ侵攻が始まって半年、世界が分断を深め続け、心痛みながらも無力感にさいなまれる日々…。地球が叫びをあげていることが、肌で感じるように思われる日々…。そのような中、「宗教を装った反社会集団であるカルト」と「伝統的な宗教」との混同の中で、サムシング・グレート（神）とのかかわりを生きることが疑問視される日々が始まっています。

「密接に絡み合う根本的なかかわり、すなわち、神とのかかわり、隣人とのかかわり、大地とのかかわりによって」（『ラウダート・シ』66）人生が成り立っている人間において、文字通り、いのちにかかわるこれら三つのかかわりが、外面的にもわたしたちの内側でも、引き裂かれていく現実があらわになってきているように思ひます。

あらためて、いま、イエスのように人を愛し、イエスのように世に自分自身を分かちあい、イエスのように御父に聴き入りながら生きることへの力強い招きが私たちキリストを信じる者に響いているように思ひます。

誰よりもイエスを信じ、誰よりもイエスを愛しイエスと共に生きたマリアと共に、真実にイエスを生きる道を教皇フランシスコは平易に語り掛けてくださっています。

マリアは、神を前にしてよろこびに震え、すべてを心に納め、剣で貫かれるのを受け入れたかたです。聖人の中の聖人至聖なるかた、聖性の道を示し、ともに歩んでくださるかたです。わたしたちが倒れたままでいるのを見ておられず、時に、裁くことなくその腕で包んでくださいます。マリアとの語らいによってわたしたちは慰められ、解放され、聖なるものへと導かれます。聖母には、言葉を連ねる必要はありません。何が起きたかを説明するのに必死なることはありません。繰り返し、そっと口にするだけでよいのです。「アヴェ、マリア、恵にみちたかた…」（『喜びに喜べ』176）

(Fr. 中川博道 o. c. d.)

